

〔特 集〕

## ■福祉社会フォーラム

# 障害児・者教育の現代的課題

報 告 1：自治体から創る特別支援教育

渡部昭男（鳥取大学地域学部）

報 告 2：障害者自立支援法施行から1年～施設現場で変わったこと、変わらないこと～

石井憲生（社会福祉法人あらぐさ福祉会）

報 告 3：就学前教育における「発達障害」児の現状と課題

服部敬子（京都府立大学福祉社会学部）

司会進行：吉岡真佐樹（京都府立大学福祉社会学部）

司会：吉岡

それでは、2007年度第1回の福祉社会フォーラム「障害児・者教育の今日的課題」を開催させていただきます。

本研究科では、「福祉社会論研究」という講義で集中講義をしていただいた先生をパネリストにお迎えしてフォーラムを開くという企画を行っており、今回はその3回目となります。

今回のテーマは、障害をもつ人々に対する、今日における教育上の課題を明らかにすること、しかもそれを福祉、労働あるいは生活上の諸課題を視野に入れたより広い観点から再整理しようというものです。

ご承知のように、学校教育法の改正に基づいて本年度から、これまで「特殊教育」と言われていた分野が「特別支援教育」となり、障害をもつ子どもたちに対する学校教育制度が大きく変わろうとしています。また、一昨年の10月には障害者の自立を目標として、「障害者自立支援法」が成立しました。この法律は審議段階から多くの議論がありましたが、その運用が開始されるなかで障害者の生活は大きな影響を受けています。このような状況の中で、教育を中心にしながら、障害児・障害者の福祉の実現のために現在どのよ

うな実践的、研究的な課題が存在するのか、を再考察・再確認しようというのが本日の問題設定です。

私は教育学を専攻していますが、戦後日本の教育学の発展をふり返ってみますと、すべての子どもたちに発達を保障していくという理念の発展とその実現への努力、例えば1979年の養護学校の義務化などは、狭い意味での障害児教育という分野に限らず、日本の教育学そのものを発展させる上で決定的に重要な要素の一つとなりました。このような背景も踏まえて、私自身、本日の報告・討論に大変期待しています。

さて、発表していただける3人の先生方をご紹介します。まず、渡部先生。先生は、京都大学大学院教育学研究科を修了され、鳥取大学地域学部にお勤めです。鳥取大学は法人化と並行して教育学部を改組し、地域学部という新たな学部を設置しました。本学と似たような経緯をたどっている新学部ですので、この点からも興味深いお話をお伺いできるかも知れません。先生は、教育行政学をご専門とされ、教育行政学関係の学会でご活躍されるとともに、日本特別ニーズ教育学会理事として、障害児教育、ニーズ教育論、あるいは地域教育福祉論などの諸分野においては日本

を代表する研究者の一人です。

お2人目は、石井憲生さんです。1990年3月、本学文学部社会福祉学科の卒業生です。学生時代は障害児学童保育サークル「わっしょいクラブ」で活躍されました。本日、この会場に来られる際、学内にそのサークルのビラがあるのを見て、非常に感激されていました。学生時代から障害児の教育と生活を研究テーマにしておられ、現在は、長岡京市の社

会福祉法人あらぐさ福祉会、障害福祉センターあらぐさ（知的障害者通所授産施設）に勤務されています。

3人目は本学の准教授、服部敬子先生です。ご専門は、乳幼児期の子どもの発達研究で、教育福祉論、発達心理学関係の授業をご担当いただいています。

それでは、集中講義でお疲れのところ大変恐縮ですが、渡部先生よろしくお願いします。